



ようこそ

# まちの美術館

博物館に、まちの憩いの場として美術館ができません。今回の特集では、インタビューを通して7月27日にオープンするまちの美術館について紹介します。

- 【写真説明】
- ①新設された第一展示室の出入口
  - ②明るい光差し込むラウンジ
  - ③デジタルミュージアム
  - ④美術館博物館の外観



## 特集



### 美術館にあなたの名前を刻むプロジェクト モニュメント

美術館を実現する会のモニュメント。命のサイクルを感じさせる種をモチーフにしている。

制作方法は全て手作業。鉄の部分は、角度や丸みに合わせて道具を変え、叩いて形を整える。

名前が刻まれる部分は真鍮を使い、一枚一枚薬剤に通し、制作。

美術館が、次世代まで引き継がれることを象徴するモニュメントとして、ロビーに設置される。

藤沢 レオ氏制作 (4ページ参照)

※イメージ図

昔から、苦小牧には美術館を望んでいた人が多く、寄贈作品も多かったと聞いています。遠藤ミマン氏の『明日の美術館を夢みる会』だったり、個人的な活動であったり。時代ごとに色んな人がかかわってきて、ここまでたどりついたと思います。

美術館を実現する会は会員180人で、



苦小牧に美術館を実現する会事務局長

居島 恵美子さん(左から2番目)

美術館実現に向けた活動を続け、署名活動、モニュメント作成の寄付金募集活動など、精力的に行う。美術館を実現する会は、一度解散し、美術館友の会として新たな活動を始める。

今回制作したモニュメントは、ロビーに設置されます。自分の名前を探したり、知り合いの名前を探したり、気軽に来ていただくきっかけになればと思います。

同じ時代に美術館を望んでいる方がたくさんいたことは、大きな励みになりました。これから美術館が繁栄していけるよう、多くの方が来る場所になればと思います。

活動中は「無理かもしれない」と不安になりましたが、何人もの方に「美術館をつくる活動をしてください」と感謝の言葉をいただきました。また、署名では約1万4千筆。モニュメント作成には2千400口。これほど多くの方が、心の底から美術館を必要としていたんだと改めて感じました。

美術館をこのまちなつくりたいという大きな目標に一丸となつて取り組んできました。

### インタビュー 美術館実現までの歴史について聞いてみました

## 市民の寄贈、要望から生まれた 美術館建設への夢 その想いを名前として刻んだ